

平成30年度第4回まちづくり懇談会

「坪井湿地を復活する会」

1. 日 時：平成30年7月24日（火） 午前10時～11時
2. 場 所：市役所9階 第2応接室
3. 次 第
4. テーマ： 未来につなぐ恵み豊かな環境のまち
市民に愛され、育まれる街

【議題】

- ① 坪井のヘイケボタル復活計画について
- ② 坪井のヘイケボタルの周知について

●団体

今日はお忙しい中、このような機会を設けていただき、ありがとうございます。

坪井湿地を復活する会は、坪井固有種のヘイケボタルの存続と、湿地の復活を目的に長年活動を続けています。6月にふなばし環境フェアの会場で、市長から「懇談会を楽しみにしています」とお声をかけていただきまして、私どもも心待ちにしておりました。よろしくお願ひします。

これから我々の活動を紹介しつつ、懇談会を進めたいと思います。

○市長

本日はお越しいいただき、ありがとうございます。

坪井は大きな森があったところに、すばらしい住宅地ができました。しかしそのために、以前は生息していたヘイケボタルが出なくなっていました。地元の人と協力してもらいながら、ヘイケボタルの復活に取り組んでいただいているのは、市として本当に心強く思っています。

船橋もいろいろなまちづくりをやっていますけれども、子どもが大人になっていく上で、自然をどのように活かしていくのかが、まちづくりの一つのキーワードになると思っています。

その中で生物多様性の戦略計画を市で作成していますが、これは市だけが頑張っても、市民の皆さんの理解と協力なくしてはなし得ないことなので、今日は皆さんからいろいろお話をお伺いさせていただいて、今後の取り組みに活かしたいと思っています。

ちなみに、私は生まれが八千代の農家で、子どものころは部活動の帰りに自転車で田んぼの脇を走っていると、ホタルが顔にぴしぴし当たるような中で育ちましたので、皆さんの感覚はよく分かります。よろしくお願いします。

●団体

最初にホタルの生態についてと、今どのような活動に取り組んでいるのかを簡単に紹介いたします。

まず、ヘイケボタルがどのような暮らしをしているかについてですが、1匹の成虫の寿命は1週間から2週間で、発光によって雄と雌が出会い、そこで交尾をして、水辺のコケなどに産卵します。卵の大きさは0.5ミリほどです。卵の期間が1カ月ぐらいあり、幼虫のふ化が近づくと幼虫の模様が透けて見えるようになります。ふ化した幼虫は、すぐに水中で生活を始めて、カワニナとか、モノアラガイといった巻き貝のほかにも、弱ったオタマジャクシとか、ザリガニなども食べてしまいます。

幼虫の期間は8カ月～10カ月ほどで、5月から6月ごろに上陸し、土の中で、さなぎになります。さなぎは1か月ほどで成虫になります。

今年の場合、ヘイケボタルの成虫は、例年より早く6月下旬から発生しました。こうしてヘイケボタルは子孫を残していきます。ヘイケボタルの生育環境はゲンジボタルと違い田んぼや池といった、水の流れが少ないところです。

今年は幼虫を500匹ぐらい放流しまして、それと並行し、水槽でも飼育しています。来年用のホタル育成を目的に、学校や、個人宅など約10カ所で家庭用の水槽を使うなどして、幼虫の確保に当たっております。

活動内容としては地域住民の理解をいただくこと、必要な資金の調達、翌年の幼虫の確保、水槽での飼育活動、それから湿地の水路や餌の増殖等が挙げられます。その内容を簡単に説明しますと、まず、地域住民の理解をいただくた

めの活動としては、カエルやヤゴといった調整池・湿地の生き物をテーマにした講座を坪井公民館と共催で、毎年4回にわけて開催しております。

次に資金の調達についてですが、平成22年ごろから始まったこの活動は、地元のボランティアグループから援助をしていただいています。併せて、平成24年度から27年度にかけて、船橋市の市民公益活動公募型支援事業で助成をいただきました。その後、平成28年度から千葉県環境財団「ちば環境再生基金」のご支援をいただいております。

続いて、本日参加している小学生のホタルサポーターから、その取り組みについて説明していただきます。

◎小学生ホタルサポーター

公民館で行われたホタルの鑑賞会で、光るホタルを初めて見て興味を持ち、去年の6月14日から約2カ月間、ヘイケボタルを観察し、レポートにまとめました。観察していると、地上に出ているさなぎが何匹かいて、ホタルのさなぎを見られるのはとても珍しいことのように、さなぎから成虫になる様子を観察することができました。ホタルは本来土の中でさなぎになるのに、うちのホタルはどういうわけか何匹も地上に出ていました。後で聞いたところ、土の中の水分が多く、苦しくて出てきてしまうのかもしれないということでした。

私はホタルを観察するまでは、光るのは成虫だけかと思っていましたが、幼虫もさなぎもお尻が光っていたのでびっくりしました。

朝起きて水槽を見ると、水に浮いているさなぎと水の中に落ちているさなぎがいて、慌てて救出しましたが、死んでしまったのではないかと心配になりました。しかし、2匹とも成虫になったので、さなぎはまだエラ呼吸なのかもしれないと思いました。

また、偶然に羽化直後のホタルを見つけることができ、羽がまだ白い状態からしっかりと黒い羽になる様子を観察できました。

7月からホタルが産卵を始め、ふ化した幼虫があまりにも小さかったので、最初は水に浮いたごみかと思いましたが、よく見ると幼虫だったので、びっくりしたのを覚えています。

ヘイケボタルの幼虫は、上陸してからさなぎになって羽化するまで、およそ20日前後かかるそうです。私が観察したところ、地上にさなぎを発見してから2日と8時間半で成虫になりました。また、白い羽が生えてからは、約6時間で黒い羽になり、飛び立つことができるようになることもわかりました。

また、さなぎは動かずにじっとしているものだと思いましたが、あおむけになったり、うつ伏せになったり、頭の向きが変わったり、常に動いていたので驚きました。

坪井には大昔からヘイケボタルが住んでいましたが、今、ヘイケボタルがこんなにも少なくなってしまったのは、マンションや新しい家を建てるために、ヘイケボタルが住んでいた湿地を潰してしまったからだということでした。

私の夢は建築家になることです。私はホタルの光がとても好きなので、あんなにきれいな光を放つ昆虫が絶滅してしまうのはとても悲しく思います。将来私が建物を建てる時が来たら、そこに住む生き物たちのことも考えなければいけないなと思いました。

こちらに私のレポートが入っていますので、後ほどごらんください。

○市長

ありがとうございます。素晴らしいですね。後で、見させていただきます。
学校の友達でホタルに興味を示している人はいますか？

◎小学生ホタルサポーター

虫が好きな子はいると思うけれども、あんまりいないです。

●ホタルサポーター

子ども会で幼虫放流式のお手伝いをさせていただいたときに、子どもの参加率がとても高くて、小学校低学年とか小学生以下のお子さんが多かったです。ホタルに興味があるのは小学校中学年位までで、高学年になると少ないかなという気がしました。

○市長

そうなんですね。

話は変わりますが、会としては草刈り等の環境を整備するための人手は足りていますか。

●団体

ホテルがいる湿地の部分の草刈りは、東邦大学里山応援隊と私たちが結構出ています。また、もっと広いところは、公園緑地課、公園協会の草刈りのときに、やっていただいていますので、草刈りは何とかなっています。とはいうものの、全体としてのマンパワーは少し不足しています。

活動が活発になってくると事務量が増えてきますし、メンバーの高齢化も今後の課題になると思います。

ただ、今のところは放流式などのイベントごとに地元の子ども会に応援をお願いしていますし、また、放流式などのイベントのポスターは地元のプロのデザイナーに無償で作成してもらって活動しています。

○市長

地元の学校との連携はあるんですか。

●団体

はい。坪井公民館と講座を共催するときに、坪井小学校にはPRに協力していただいています。

以前は、坪井小学校の校舎の中に幼虫の水槽を置かせてもらっていたんですが、学校は夏休みなどで校舎に入れなくなると幼虫の世話ができなくなることや校舎の増設で置けなくなり撤収しました。

坪井中学校は活動の報告等はしていますが、生物関係の部活がないので、具体的な連携はできていないです。

また地元の日本大学にもいろいろと協力いただこうと思って、先生にも相談しています。しかし、同じく生物関係の学部がないことや、具体的なきっかけがないため、今のところまだ連携はできていないですね。

○市長

先ほどの話に出た、東邦大学とはどのような活動をされていますか。

●団体

東邦大学では里山応援隊という学生サークルが、主に坪井湿地の草刈りや土整備とか、水質の調査等々をしています。

私は東邦大学のOBで在学中も里山応援隊として活動していましたが、卒業後の今もメンバーとして参加しています。

○市長

高校、大学の人たちといい形で連携していくのが良い方法なのかもしれないですね。

●団体

この活動を指導していただいたのが、船橋芝山高校の佐野先生です。また、近所にお住まいの松戸南高校の安齋先生にも今もご指導いただいています。

おかげで水槽を置いていただける学校は、最近、増えており、佐野先生の紹介で国府台女子学院とかにも置かせてもらっています。

個人のホタルサポーターも希望者がどんどん増えています。個人の方は今11人で、これからも増えると思います。

○市長

ホタルはサポーターの方でも無事に飼育ができるものなんですか。アドバイスを受ければ、大丈夫なんですか。

●ホタルサポーター

飼育はそんなに難しいことではないので大丈夫です。

ただ、私は生まれたばかりの1ミリぐらいの幼虫を数えるのがすごく大変でした。

数を把握しようと思って、その小さな幼虫を700匹近くスポイトで移していったので、それがとても大変でした。でも、幼虫が光っているところが見れてよかったです。

○市長

私は、幼虫が光っているのは見たことがないんですが。

●団体

自然では、幼虫が光っているのはまず見られませんね。水槽で飼わないと見られないと思います。

そういうわけで、三番瀬にできた環境学習館で、ホタル幼虫の水槽を置こうかという話を進めています。

○市長

あそこは海水の水槽はあるけれども、真水の水槽はないので、いいかもしれないですね。

もし、サポーターをもっといっぱい欲しいなということであれば、市の広報とかで呼びかけることはできると思います。市の広報でやると、ものすごい数が集まってしまうかもしれないですけども。

そういえば、初めに固有種とおっしゃっていましたが、他の場所にいるヘイケボタルと坪井のホタルとは違うんですか。

●団体

水系が違う環境の中でずっと生きてきたということで、他の地域にいるヘイケボタルと混ぜては駄目だと先生方に言われています。

一つの例では、関西のホタルと関東のホタルでは、光の点滅の時間が違うそうです。私も坪井の個体数が少なくなったら、金杉からもらってこようかと思ったのですが、水系が違うのでやめてくれと言われました。

○市長

そうなんですね。

●団体

これまで7年ぐらい活動を続けていますがいろいろな方々からご指導ご協力をいただいております。船橋芝山高校、東邦大学の里山応援隊、松戸南高校、このほかにも、協力していただいている学校が増えてきています。

それから、船橋市の各部署には本当に快く支援をしていただいております。個人以外のホタルサポーターも、高校が4校になり、今年も増えると思います。

さらに、活動を充実させて、坪井固有種のヘイケボタルを絶やさず、復活させていくこの活動を皆様の力をお借りしながら続けていきたいと思っています。

そして、いずれは、坪井のヘイケボタルが船橋の魅力の一つになるように頑張っていきますので、よろしくをお願いします。

○市長

今日はありがとうございました。これからの船橋を担ってくれる小学生のサポーターの方にも来てもらって、とっても心強かったです。最初に言ったように、自然はこれからのまちづくりのキーワードになると思っています。以前、市の花のカザグルマが絶滅しそうなときに、これを絶滅させてはいけないということで、挿し木をどんどんやっていって、今かなり増えてきたということもありました。

自然の保護という観点からいうと、そこに元来生息していたものを絶やさず未来につないでいくというのは大事なことなので、ぜひ皆さんに引き続き頑張ってくださいと思います。また、これから市の戦略をやっていく上でもいろいろな形でご協力いただきたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。

— 了 —